

ゆく年 2004 年を想いて — 教材テーマから

2004/12/27

I.Nishida
(Richmond)

2004 年もあと数日を残すのみとなりました。振り返れば今年もいろいろな出来事がありました。2004 年を終るにあたって、皆さんと一緒に勉強してきた今年一年の教材を通じて行く年を振り返ってみたいと思います。

1. 異常な天候と新潟・中越地震

今年は異常な夏の暑さが印象に残っています。8 月には、気温 30 度以上の真夏日が連日 40 日も続くという新記録になりました。9 月に入っても暑さが続き、30 度以上の真夏日が年間で 69 日に達しこれは史上新記録とのことです。

また、今年は台風の当たり年でした。日本に上陸した台風は過去最多の 10 個となり、各地に大きな被害、また、野菜の高騰をもたらしました。(台風 22 号は伊豆半島に上陸したあと、関東を直撃し成田市の真上を目が通過していきました。)しかしなんとといっても 10 月 20 日に上陸した台風 23 号で近畿、北陸、東北地方の日本海側各地は記録的な豪雨災害となり、そのうえ、大地がたっぷり雨を含んだ状態で 10 月 23 日に震度 7 という強烈な地震が新潟・中越地方を襲い甚大な被害をもたらしたことは記憶に生々しいところです。

私は、10 年前の阪神大震災の時には海外に滞在中であったため出身地・関西の詳しい情報が得られず隔靴搔痒の感を持ったことを記憶しています。今回の新潟・中越地震の被害状況をテレビなどでつぶさに見て自分も何とかせねばならないと正直思いました。災害時の日本の初動救援、救助活動の組織力・実行力そして全国からの被害者への励ましの輪の広がり心あつくなるものを覚えました。特に、崖から墜落し 3 日間も瓦礫の中に埋まったままの車中に閉じ込められていた 2 歳半の男の子が余震の続く中、必死に作業を続けるレスキュー隊によって無事に救出された様子を実況中継で見たときは本当に感動しました。

世界的には上越新幹線列車の脱線が写真入りで大きく報道されました。この事故が、怪我人もなく脱線だけですみ、一歩間違えれば転覆、高架から墜落という大事故にならなかったことは不幸中の幸いでした。

No.36 (1) - Back-to-back typhoons push up vegetable prices

No.36 (2) - Powerful Quakes Shake Japan

No.36 (3) - Earthquakes shakes Japan, day after deadly typhoon

2. イラク戦争と日本

大量破壊兵器を取り除くという大義名分でアメリカがイラク戦争を始めて来年の 3 月で丁度 2 年になります。実際には大量破壊兵器は存在しなかったことが公式に確認されアメリカは戦争の大義と面目を失いました。しかし、その後、アメリカはフセイン政権という独裁政権を倒し中東

に民主化をもたらすこととにイラク戦争の正当性があるといったレトリックを用いています。軍事的にはバグダッド陥落後も、イラク全土で反米テロがいつこうに治まらずイラク国内はますます混迷を深めているのが現状です。

日本としてもイラク戦争とは無縁ではありませんでした。日本の安全保障がアメリカとの同盟関係で維持されていること、また、日本が石油資源を全面的に中東に依存しているという国益論から自衛隊が人道・復興支援という名目で遠くイラクまで海外派遣された年でもありました。米国との協調行動をとったが故に、今年、何人かの日本人がイラクの地で犠牲となりました。最初、日本の外交官二人が武装勢力に襲われ死亡しましたがこれは職務上の不幸でした。しかし、4月に、イラク現地でボランティア活動をしていた日本人の若者3人が武装勢力に拘束されるという事件が発生しました。後、彼らはイラクの人々のために純粋にボランティア活動をしていたことが理解されて無事開放されました。しかし、イラクに入った彼らに対して、このとき国内では「自己責任論」が異様なほどに取り上げられました。その後にも、日本人写真ジャーナリストが犠牲になっています。その後、このような状況下にもかかわらず、ニュージーランドの語学学校に通っていたという日本人が、何が為かフラフラとイラクに入り、案の定、武装勢力につかまり、彼は“自衛隊はイラクから撤退せよ”と言わされましたが当然に日本政府はテログループの要求を無視することを貫いたためテロメンバーに殺害されました。

21世紀になり、これまでの国家間の戦争という形から“テロと国家”との戦いという図式に変わってきたように見えます。しかしテロ集団といってもその背後にはイスラムという宗教世界があり大げさにいうならば昔の十字軍時代のイスラム世界と西欧キリスト世界との文明戦争という気がします。そして、もしこれが大規模・地球的な宗教・民族対立となったときに（仏教国、神国、それとも無宗教国？）日本はどのような立場をとるのでしょうか？

No.4 (1) - Japan's advance ground troops entering Iraq

No.5 (2) - Aftereffects of 9/11

No.6 (2) - Former US Inspector Criticizes Faulty Intelligence in Iraq Weapons Search

No.12 (1) - Al-Qaeda linked organization threatens Japan

No.14(2) - Japan Will Not Withdraw Troops from Iraq, Despite Kidnapping of 3 Civilians

No.14(3) - (補助教材) Fate of Japanese hostages uncertain

No.15 (1) - 3 Japanese hostages freed in Iraq

No.20 (1) - Japanese Police Make Arrests Linked to Al-Qaida

No.21 (2) - George Tenet's resignation

No.22 (2) - US and Britain face European opposition to NATO role in Iraq

No.23 (1) - Al Qaeda canceled Asia attacks

No.40 (1) - Ohno suggests SDF may leave Iraq in December 2005

3. 北朝鮮問題

後世の歴史家が、目下の小泉政権の対北朝鮮外交をどのように評価するか今からぜひ知りたい

ものです。

小泉首相としては、自分の外交関係の手柄として北朝鮮との国交樹立の実現を目指していたことには違いありません。だからこそ、北朝鮮に直接に赴き、また、金正日としても、日本からの賠償、経済援助を取り付けるため、これまで完全否定してきた日本人拉致を認め、その幕引きとして、蓮池夫妻、地村夫妻、曾我ひとみさんを解放しました。

ご存知のように日本国内の世論はこれで収まらず、再度、小泉首相は蓮池、地村夫妻の子供、曾我ひとみさんの夫、子供を取り返すために、異例中の異例にも、再度北朝鮮に出向き食糧支援のお土産つきで子供たちの帰国を実現しました。

何故、小泉首相は北朝鮮との正常化を急ごうとしたのか。いま、その理由や目的は明らかにされていませんがおそらく首相周辺、取り巻きのなかに（見返りをえて得をする）黒幕、フィクサーがいるに違いありません。

日朝国交回復が思惑どおり進まない状況となったため、近頃は、小泉首相は国連安保理の常任理事国になりたいという外交プロパガンダを真摯な国内評価を抜きにして使っています。

11月になり政府間交渉でも、北朝鮮は、13歳で拉致された横田ひとみさんが現地で死亡したとするために他人の骨を日本に提出してきました。このことなどを見ても北朝鮮側には誠意は全く感じられません。どうしてこのような国と国交正常化をしなければならないのでしょうか。テレビ報道などで見るかぎり北朝鮮の国内は本当に貧しく、おそらく現在の金正日体制は行き詰っているに違いありません。だからこそ、イラクの独裁者フセインが打倒されたとき、金正日は自分の政権の体制保証をアメリカに求めました。（しかし、アメリカは見返りとして北に核開発の完全放棄を求めたが、北としては自分たちの体制を守る最後のカードである核の放棄に同意せず、よって、米国は6者協議の枠組みで北に核廃棄の圧力をかけようとしています。）

今後、北朝鮮にしっかりとメリハリをつけて対応していくことが望まれます。しかし、あのような専制・独裁体制の国（ようするに国民が選挙を通じて指導者を選ぶことができない）では、取り巻きのゴマすり連中は国民の幸せなどは眼中になく自己の利益追求・保全のみに関心があり、親分に取り入るためには何をしでかすかわかりません。したがってこのような、理性を持たない連中の盲動的跳ね返り・暴発を十分に想定し、また、日米安保の実効力も含めて対応シナリオ、戦略プランを作成し正面から対応していけばよいとおもいます。

（金正日が、小泉さんが言うように常識ある人物なら、小泉さんが金正日に直接電話し“これじゃ、あんた、日本国内が持たないよ。”と伝えればよいのに。）

No.6 (1) - N.Korea spy ship will be public in Yokohama

No.8 (1) - Japan-N.Korea talks in Pyongyang fail to make substantive progress

No.10 (1) - Prime Minister Koizumi briefed on six-party talks

No.16 (1) - North Korea releases first statement on explosion

No.19 (1) - 5 Family Members of Japanese Abductees Released by N.Korea

No.19 (2) - Relatives of abductees condemn Koizumi, summit

No.31 (1) - SDF to review equipment to deal with terrorism

No.37 (1) - Japan, S.Korea to stick with US on 6-party talks

No.42 (2) - Mystery Still Surrounds Remains Given to **Japan** by N.Korea

4. 国内経済

今年はじめ、日本経済はバブルの後遺症から抜け景気回復の実感が得られました。企業は未曾有の好決算を発表し、また、社員の夏のボーナスも増加しました。

しかし、この回復の背景には、正社員のリストラ、中国など人件費の安い国外への外注、派遣社員などの利用などの血の出るような経費の徹底的節減、また、チームプレーを無視した個人の業績成果主義の短絡的な導入などがありました。

外部要因としては、中国の異常ともいえる経済成長でそのおこぼれ（鉄鋼、自動車などの好調な輸出）を享受しましたが、国内的には経済発展の基本となる内需の個人消費は伸びていませんでした。

年後半になり、アメリカ景気浮揚のための採られているドル安・円高の進行、原油価格の異常な高騰、また、IT バブル（過剰な設備投資と過当競争）気味で国内経済の回復は踊り場の足踏み状態に入っています。デパート、スーパーの売り上げは毎月前年同月比で下回っています。

No.10 (2) - Japan's Economy Shows Healthy Growth

No.18 (1) - Oil hits 13-and-half-year high in dollar terms

No.24 (1) - Toyota, Nissan to sell luxury cars in Japan

No.28 (1) - Summer bonuses highest in 6 years

No.30 (1) - WTO allows action against unfair US protectionism

No.33 (1) - Business sentiment improves, but outlook dims

No.39 (1) - Research institutes downgrade economic outlook

5. 社会の動き

5. 1 牛井のストップ

サラリーマン時代、新橋の牛井屋には随分お世話になりましたが、今年になり牛井が急に消えてなくなりました。アメリカで BSE が発生しアメリカ産の牛肉の輸入がストップしたためです。日本としては、アメリカからの輸入再開は、アメリカ国内での BSE 全頭検査を前提とすると国会でも表明していましたが、小泉さんが、ブッシュ再選前のブッシュとアメリカで会った後、どういうわけか、全頭検査という条件は引っ込めたようです。アメリカの方は、日本で BSE が発生して以降、日本産の牛肉の輸入を完全禁止しています。また、カナダでも BSE が発生したためアメリカはカナダからの牛肉輸入も禁止しています。（このため、アメリカ国内の牛肉の値段が高騰しているとのことです。）

No.7 (1) - Japan seeks end to US ban on Japanese beef

No.9 (2) - Yoshinoya stops serving famed gyudon

5. 2 年金問題

日本は急速に少子高齢化の社会に向かっています。これに伴って、日本が世界に誇ってきた国民皆保険、皆年金の社会保障制度は間違いなく曲がり角に来ています。

制度を維持するためには、負担する人と給付される人との世代間で全員が納得する公平さが担保されなければなりません。しかるに、国会で制度をつくるはずの国会議員や大臣連中に年金支払い未納者が数多くいたのは社会的公正からも許せません。今後ますます若い人を中心に年金制度への不信が高まるのが心配です。(おそらく今後、消費税を含めた各種税金の増税がされます。)

No.17 (2) - Ministers admit ducking pension fees

5. 3 企業の社会的責任 (鳥インフルエンザ、三菱自動車、UFJ)

今年も企業の社会的な責務を問う事件が多発しました。しかし、不正の発覚は、会社内部の人間が外部に訴えるという、いわゆる内部告発(whistle-blowing)によるものでした。京都の養鶏業者は多くの鳥が異常死しているのにもかかわらずその事実を隠して出荷を続け、最後に、この業者は社会的な批判をうけ廃業に追い込まれました。(おかげで、物価の優等生であった卵の値段が高騰しています。)

三菱自動車は、クラッチハウジングやその他の箇所の欠陥を設計時から知りながら販売を続けていました。このために人命が失われる事故もおきました。三菱自動車の経営者連中は自社が造っている「車」を愛していないのです。このような三菱自動車の経営姿勢に愛想をつかして、ドイツのダイムラー・クライスラーは三菱自動車との提携を解消しました。

UFJ は、貸し先からの資金回収が見込めないにもかかわらず不良債権に計上せず当初は黒字決算書を作っていました。(企業がやってはならない粉飾行為です。また、監査法人も黙っていました。) 社員からの内部告発で、UFJ が金融庁の検査を騙そうとしていたことが公にされ、結果は、経営陣の総退陣となり UFJ は東京三菱に呑み込まれることになりました。

社会正義のために企業内部の「内部告発」者を保護するための法律も出来たようですが完璧とはいわれていません。アメリカであれば、すぐに株主訴訟が起こされ、企業経営者は社会に対する刑事責任だけでなく株主に対しても大きな民事責任を負わなければなりません。日本でも、株主による経営チェック機能がもっと高められてもよいと思います。

No.5(1) - Japan to ban all bird imports from flu-infected areas

No.22(1) - Ex-Mitsubishi president knew of defects

No.27 (1) - UFJ, Mitsubishi-Tokyo start merger talks

No.34 (1) - Tokyo Prosecutors search offices of UFJ Bank

5. 4 ヨン様ブーム

韓国の、歯の浮くような純愛ものの映画が日本の(中年ぐらいの?) 女性の間で大流行で、異常ともいえるヨン様ブームが巻き起こっています。このヨン様ブームによる経済効果(イベントやヨン様グッズの売り上げ、韓国旅行など)は、日本で 2000 億円、韓国で 1000 億円という数字も出ています。

その昔、宝塚歌劇の「ベルサイユのバラ」(ベル・バラ)が大変な人気をえました。「白馬に乗った王子様」の出現を夢見した当時の年代の女性が、目下、ヨン様に忘我しているのでしょうか。いやはや日本は平和なもんです。(これは半分、私のヒガミ根性からです。)

No.20(2) - Heart and Seoul : 『ヨン様来日、「冬ソナ」フィーバー』

6. 皇室の話題

今年は、例年になく皇室の話題が多く、また、海外メディアも多く取り上げました。皇太子妃・雅子様のご病気は言うまでもなく大変なプレッシャーに起因しています。そして、皇太子が、雅子様に対しての外部からの「人格否定」があったとの発言が記者会見でなされたときには内外に大きな波紋を呼びました。私としては、この皇太子の発言に対しての、弟・秋篠宮様が批判的な発言をされたのには意外なものを感じました。

いずれにせよ、今後も、女性天皇を認めるための「皇室典範」の見直し論議が活発になると思われます。

天皇、皇后陛下家族の一人娘の紀宮様の婚約が年末になってやっと内定しました。

No.18 (2) - Palace life put strain on Japan's princess

No.40(2) - Royal Romance : 『紀宮さま 婚約内定』

7. スポーツの話題

7. 1 アテネ・オリンピック

夏休み中はテレビにかじりついてオリンピックを堪能しました。昔日本のお家芸であった体操で、団体に金メダルを勝ち取ったときは涙ものでした。水泳の北島選手、柔道のヤワラちゃん、そして、女子マラソンの野口選手などのがんばりにも感激でした。

一方、ドリーム・チームといわれた野球、女子バレーボールは本当に不甲斐なかったです。(オーストラリア・チームは試合前から日本の各選手を徹底的に研究分析していました。)

No.29 (1) - Japan's Olympic medals reach a record 34

7. 2 野球 (イチロー、松井の活躍、日本プロ野球初のスト決行)

イチローが84年ぶりにアメリカ大リーグの最多安打記録を打ち立てました。また、松井秀喜選手は、名門NYヤンキースの4番打者に定着しています。昔の人間からすれば、日本人選手が本場アメリカのように活躍するとは夢にも思っていませんでした。それにしても、野茂投手は今年大リーグに移籍して10年になるそうです。最近の成績は今ひとつですが、アメリカ大リーグに日本人選手の実力認めさせた大変な功労者です。

国内のプロ野球では、プロ野球を黒幕、ボスの的に牛耳っていた、巨人の渡辺、西武の堤オーナーが野球界から退場してくれたことはスカッとしました。そして、パリーグの球団経営者が合併という手段で縮小経営に持ち込もうとしたのを、古田選手を会長とするプロ野球選手会が、パイを広げる拡大経営の発想で、ストライキにより経営に対抗したことは、野球ファンの殆どが支持しました。結果、今をときめくIT産業の楽天がプロ野球に新規参入し来年の野球に楽しみができました。

No.32 (2) - Japanese Baseball Players Strike For First Time

No.35 (2) - Magical 262! : 『イチロー84年ぶり大リーグ新記録』

8. その他

8. 1 ブッシュ再選

今後4年間、世界の動きに大きな影響力をもつアメリカ大統領に共和党のブッシュが再選されました。当初、民主党のケリー優勢との世論調査結果の報道もありましたが結果はブッシュが350万票の差で再選となりました。

第一期ブッシュ政権は、アメリカの単独一国主義が目立ちました。例えば、地球温暖化の防止の「京都議定書」にも、世界一炭酸ガスの放出しているアメリカは批准を拒否しています。また、世界の人々の希求である「地雷禁止条約」にもアメリカは参加していません。なかんずく、ブッシュ政権の体質を表したのは、イラク戦争の開始にあたり国連との協調を無視し、「対テロ国家先制攻撃論」を正当化しました。

ブッシュ再選の背景には、アメリカのキリスト教原理主義の後押しが大きな貢献がありました。確かに彼らは、同性愛者の結婚反対、妊娠中絶反対を標榜していますがかなり極端な原理保守主義の傾向があります。(ダーウインの「進化論」は神の摂理に反するという宗教的圧力で「進化論」の教育が禁止されている州が幾州もあるそうです。)

「アメリカがクシャミをすれば日本は肺炎になる」という日米一辺倒の関係構造から、発展著しいアジア各国と対等な連携をベースにした多極的バランスに存立する国際関係に、日本は移行していけるのでしょうか。

No.33 (2) - US Presidential Candidates Debate Foreign Policy

No.37(2) - Kerry Concedes, Bush Wins 2nd Term

8. 2 中国問題

年率8%以上の異常ともいえる経済成長を続ける中国と日本の関係がギクシャクしています。経済的には、日中間は太い貿易があり「熱い」関係にありますが、政治的には、小泉首相の靖国参拝問題で「冷めたい」関係となっています。

小泉首相は、靖国神社参拝は先の大戦で死亡した人を衷心から弔うだけであるといっています。しかし、先の大戦の犠牲者で靖国には祀られていない人々が数多くいることを決して忘れてはなりません。例えば、東京はじめ日本各地の主要都市の爆撃で死んだ人々、また、怪我をしてその後長く後遺症を残した人々、軍人であっても、戦地で死亡はしなかったが、敵弾にあたり身体障害者となった人々、恐怖体験からの精神的 PTSD で悩んでいる人、さらには、戦後、満州やシベリアで捕虜となり極寒のシベリアの抑留中に死亡した人々などで戦争の直接・間接の犠牲者とその家族で靖国神社と関係のない国民は数多くいるはずです。(広島、長崎の原爆、沖縄の地上戦で死んだ一般市民も忘れてはなりません。) このような人々に対する、彼からのねぎらいの声は聞いたことはありません。そのうえ、鹿児島県の知覧の特攻隊の飛行場あとで、一人涙を流しているところを TV に映させるなどパフォーマンスが見え見えと思うのは私だけでしょか。(本当に若くして没した特攻隊員を思うなら散った本人およびその家族に対しそれなりの表敬の仕方があるはずです。)

一方、中国の方も、北京オリンピックに向けては経済成長を維持しなくてはなりません、すで

にバブルの傾向があり、目先の利だけの過剰な投資・投機、貧富の差の拡大、また、近代化の発展がめざましい沿岸部と内陸奥地の農村との地域格差の拡大、そして、党権力者・官僚の汚職の蔓延などなど、深刻な内政問題が山積しているといわれています。中央政府に対し不満を持つ国民のフラストレーションのガス抜きのために、尖閣の領土問題や東シナ海の権益確保など行動に見られるように、ナショナリズムを煽って日本批判、反日運動を展開しているものと見られます。

No.14(1) - **Japan arrests Chinese activists for landing on Senkaku Islands**

No.38(1) - **Japan** determines the sub is a Chinese vessel

No.38 (2) - **Japan** protests sub intrusion and asks for apology

No.38 (3) - Mental health fears in **China**

No.42 (2) - **China's biggest PC maker to acquire IBM's PC unit**

以上。